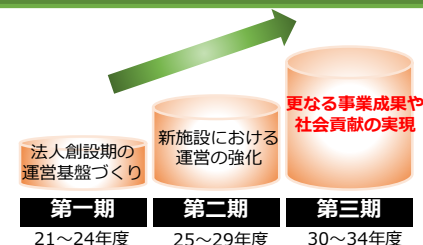


令和元年度
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
業務実績等報告書概要

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

第三期中期計画

～これまで培ってきた技術・知見を活用し全都的な取組を展開～

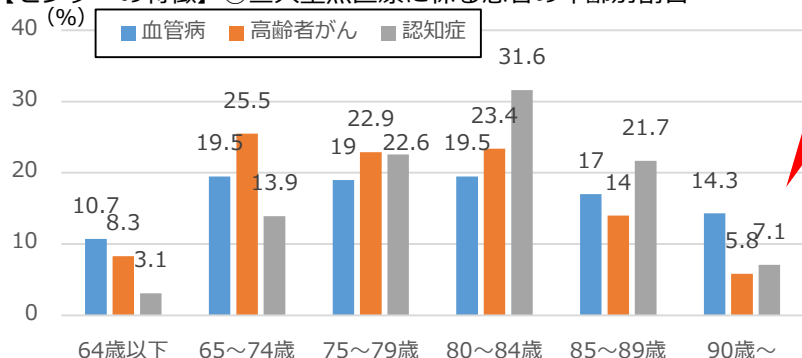


【重点方針】 (計画期間：平成30年度から5年間)

- ①高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及
- ②高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究
- ③医療と研究が一体となった取組の推進
- ④高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成
- ⑤業務内容の改善及び効率化
- ⑥財務内容の改善等

令和元年度の業務実績等

【センターの特徴】 ①三大重点医療に係る患者の年齢別割合



全ての疾患で65歳以上の割合が約9割、80歳以上の割合は約半数を占める

(※) 血管病、高齢者がんについては、DPCデータに基づき、それぞれ血管病、高齢者がんの対象となる入院患者の割合。認知症については、もの忘れ外来を受診した患者の割合

②入院患者の担送・護送・独歩割合

種別	割合	定義
担送	46.3%	ストレッチャーなどを使用して、2人の介助者が必要
護送	37.1%	車椅子などを使用して、1人の介助者が必要
独歩	16.6%	自力で歩ける、介助者なし

介助の度合いが高い患者の割合が8割を超える

こうした状況にも適切に対応し、都の高齢者医療及び研究の拠点としての取組を加速

➡ 年度計画を概ね達成するとともに、第三期中期計画の達成に向けた取組を進めることができました。

自己評価結果

事項	項目数	S	A	B	C	D
高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及	9	0	6	3	0	0
高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究	4	1	2	1	0	0
医療と研究が一体となった取組の推進	1	0	1	0	0	0
高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成	1	0	1	0	0	0
業務内容の改善及び効率化	2	0	0	2	0	0
財務内容の改善等	3	0	0	3	0	0
合計	20	1	10	9	0	0

〈評価S・Aの主な項目〉

【病院部門】

- ・三大重点医療 (血管病医療、高齢者がん医療、認知症医療) への取り組み (A)
- ・生活機能の維持・回復のための医療 (A)
- ・救急医療 (A) など

【研究部門】

- ・高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究(A)
- ・高齢者の地域での生活を支える研究 (A)
- ・研究推進のための基盤強化と成果の還元 (S) など

【経営部門】

- ・高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成 (A)



1. 三つの重点医療を始めとする提供体制の充実

① 血管病医療 評価A

急性期患者の積極的な受け入れや早期リハビリ等に引き続き取り組むとともに、より低侵襲な治療の導入など、**高齢者の特性に配慮した医療の提供体制の強化**を図りました。

【主な取組】

- 分枝再建を必要としないデバイスの導入など、胸部及び腹部大動脈瘤 ステントグラフト内挿術の推進【胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術件数：62件(③42件)】



【分枝再建を必要としないデバイス】

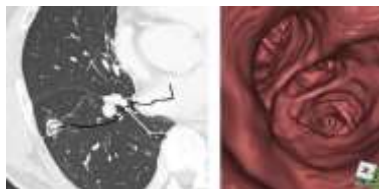
- 経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）の再開に向けた体制整備
- 人工すい臓を導入し、糖尿病患者の周術期の適切な血糖管理を推進

② 高齢者がん医療 評価A

正確かつ低侵襲な検査・治療の一層の推進や、重症症例の症状緩和など、**がんの早期発見・治療、症状の重症化防止**に取り組みました。

【主な取組】

- 仮想気管支鏡画像を活用した超音波気管支鏡による診断に、迅速細胞診(ROSE)を組み合わせることで、正確かつ低侵襲ながん診断を積極的に実施【ROSE件数：55件(③47件)】



【仮想気管支鏡画像】

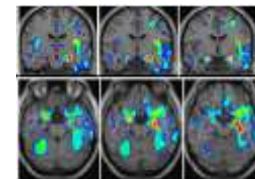
- 高齢者血液疾患に対し安全で効果的な 造血幹細胞移植療法等を推進【移植実績：25例(③26例)、骨髄・末梢血幹細胞採取等12例(③14例)】

③ 認知症医療 評価A

認知症の診断・ケアや、地域の認知症対応力向上等、**認知症の早期診断・発見や地域との連携の推進**に取り組みました。

【主な取組】

- 画像診断の精度向上・早期診断を目的として、MR I 検査等を積極的に実施【MR I：1,512件(③1,419件)】



【MRI検査画像】

④ 生活機能の維持・回復のための医療 評価A

入院患者の早期退院に向けた支援や、高齢者特有の疾患に対する外来でのケア等、**「治し支える医療」**に向けて取り組みました。

【主な取組】

- フレイル外来でフレイルや認知機能の評価を行い、その結果を治療方針等に活用【フレイル外来患者数：574人(③501人)】
- 栄養サポートチーム（NST）による栄養介入や管理栄養士の病棟常駐等、栄養管理体制を強化



【NSTによる回診】

⑤ 医療の質の確保・向上 評価B

研修等の計画的な実施や専門資格の取得推進など、**高齢者の特性に合わせた最適な医療の提供**に取り組みました。

【主な取組】

- 看護師の専門能力向上のため、研修派遣等を計画的に推進

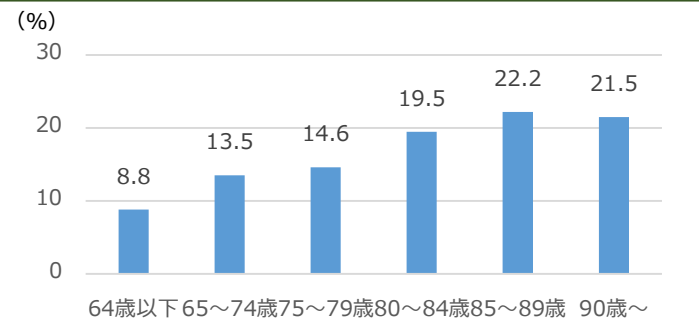
2. 地域医療の体制の確保

① 救急医療 評価A

地域医療機関や消防署との連携を図りつつ、**高齢救急患者の受入**に引き続き取り組みました。

【主な取組】

- ・ SCUを活用し、急性期脳卒中患者に対し、適切な医療を提供【SCU稼働率：85.6%（@80.4%）】
- ・ 高齢救急患者の積極的な受入を引き続き実施【救急患者数：9,667人（@9,782人）】
センターの65歳以上患者割合：91.2%（全国救急搬送患者※の65歳以上割合：71.3%）
※傷病程度が中等症以上の患者（令和元年版「救急救助の現況」）



【救急患者の年齢構成※（※令和元年度DPCデータに基づく救急からの入院患者）】

② 地域連携の推進 評価B

地域医療機関等との連携の推進、紹介受入・逆紹介の強化等、**地域と連携した医療実施体制の整備**を推進しました。

【主な取組】

- ・ かかりつけ医に対し迅速に入院経過報告を行う体制を整備するなど、地域医療機関との連携を強化【紹介患者数：13,913人（@12,936人）】
- ・ 脳卒中地域連携パスの連携病院を増加させ、退院調整を円滑化【連携病院：8病院（@6病院）】
- ・ 地域医療構想調整会議での議論を踏まえ、区西北部二次保健医療圏の他病院がセンターに求める役割・ニーズの把握に向けて準備を行った。

3. 医療安全対策の徹底

① 医療安全対策の徹底 評価A

院内の事故等の情報集約・分析・共有等、**医療安全、感染防止対策の一層の強化**に取り組みました。

【主な取組】

- ・ 抗菌薬適正使用支援加算を取得し、抗菌薬の用法・用量等について適切に管理する体制を整備
- ・ 転倒に関する実際の事例を参考とした危機予知トレーニングを実施し、転倒・転落事故の抑制に向けた取組を推進【転倒・転落事故発生率：0.36%（@0.35%）】（全国中央値※：0.45%）※2017年「医療の質の評価・公表等推進事業」



【抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の感染症患者への介入】

4. 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

① 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上 評価B

医師の事務負担軽減や、患者満足度調査の結果等を踏まえた取組の実施等により**患者・家族の視点に立った医療の提供**に向けて取り組みました。

【主な取組】

- ・ 医師事務作業補助者の業務の拡大により、医師の事務負担軽減に努め、患者サービスの向上を推進
- ・ ご意見箱や患者満足度調査の結果等を踏まえ、院内掲示や院内清掃の改善等患者満足度の一層の向上に向けた取組を推進【入院患者満足度：89%（@91%） 外来患者満足度：83%（@81%）】



① 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究 **評価A**

がんの治療や転移の抑制、老化制御や健康維持等に関わる研究を推進し、老年疾患・老年症候群の克服に向けて取り組みました。

【主な取組】

- 細胞表面の糖脂質の1種である**ガングリオシドGM2**が**がん幹細胞を含むヒト膵臓がん細胞及びヒト膵臓がん組織で発現**していることを見出し、**膵臓がんの増殖、浸潤、進行度と関連**することを明らかにした。

《掲載誌》 Scientific Reports

《英文表題》 Ganglioside GM2, highly expressed in the MIA PaCa-2 pancreatic ductal adenocarcinoma cell line, is correlated with growth, invasion, and advanced stage

- 咀嚼により大脳皮質の血流量が増加し、認知機能の向上などの作用を果たす**こと、また、**咀嚼をイメージするだけでも同様の効果が得られる**ことを明らかにした。

《掲載誌》 Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism

《英文表題》 Involvement of the basal nucleus of Meynert on regional cerebral cortical vasodilation associated with masticatory muscle activity in rats

② 高齢者の地域での生活を支える研究 **評価A**

多世代間の交流や地域における高齢者支援等に関わる研究を推進し、高齢者を支える地域づくりに向けて取り組みました。

【主な取組】

- 認知症本人のQOLを評価するための尺度となる**日本語版DEMQOL、日本語版DEMQOL-Proxym**を開発

《掲載誌》 Geriatrics & Gerontology International

《英文表題》 Reliability and validity of the Japanese version of a self-report (DEMQOL) and carer proxy (DEMQOL-Proxy) measure of health-related quality of life in people with dementia

- 75歳以上の高齢者の外来診療における**医薬品処方の実態及び薬剤の併用パターン**を明らかにした。

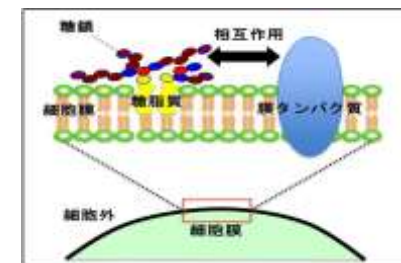
《掲載誌》 Geriatrics & Gerontology International

《英文表題》 Drug prescription patterns and factors associated with polypharmacy in over one million older adults in Tokyo

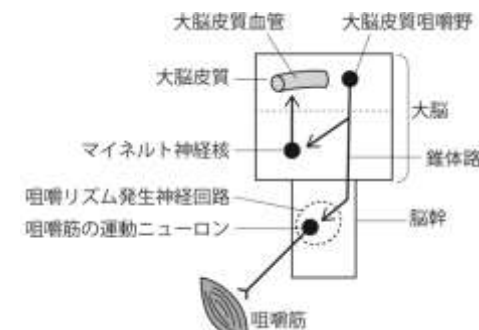
- 一人暮らしによる健康リスクは、人のつながりにより緩和**されることを明らかにした。

《掲載誌》 Journal of the American Medical Directors Association

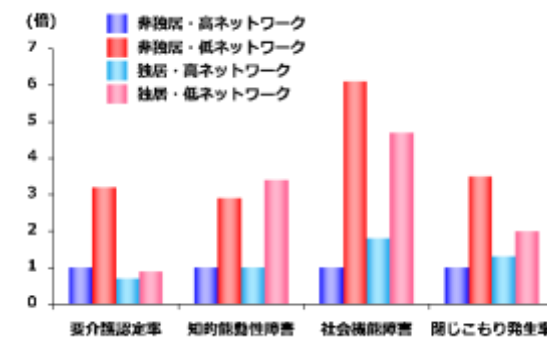
《英文表題》 Poor Social Network, Not Living Alone, Is Associated With Incidence of Adverse Health Outcomes in Older Adults



【膵臓がんの増殖、浸潤における糖鎖の役割】



【咀嚼にともなう脳血流量増加の神経メカニズム】



【居住形態・社会的ネットワークと健康状態の悪化リスク】

③老年学研究におけるリーダーシップの発揮 評価B

他の研究機関と連携した次世代医用技術の推進等、**都における老年学研究の拠点としてリーダーシップを発揮**しました。

【主な取組】

- 健康長寿イノベーションセンター（HAIC）を中心として、国立長寿医療研究センターと連携した医療現場へのロボット技術等の実装に向けた活動を実施

④研究推進のための基盤強化と成果の還元 評価S

研究支援組織の活用や地域の人材育成等を通じ、**研究の基盤強化と研究成果の全般的な普及**に向けて取り組みました。

【主な取組】

- HAICを中心として知的財産ポリシーの新規制定等、知的財産活動の一層の推進を図った。【特許申請数：13件（^③6件）】
- 認定臨床研究審査委員会*及び研究倫理審査委員会において外部からの審査依頼に対応し、いずれも新規で2件の外部審査を受託した。
- 公的研究費への応募や産学公連携活動を推進し、外部資金獲得金額が過去最高記録を更新
【外部資金獲得金額：983,066千円（^③978,370千円）】

※認定臨床研究審査委員会…厚生労働大臣の認定を受けて、臨床研究法に定める研究の審査を行う。

令和元年度の主な実績（TR部門）～医療と研究が一体となった取組の推進～

1. 医療と研究が一体となった取組の推進 評価A

①トランスレーショナル・リサーチの推進

HAICにおいて実用化研究を重点支援し、産学公連携を推進する等、**老年学・老年医学に係る高い研究成果の創出**に向けて取り組みました。

【主な取組】

- HAICの支援により、企業と連携してセンターの研究成果を活用したシステムやアプリケーションを構築するなど、研究の実用化を推進

〈認知症支援の推進に向けた取組〉

医療従事者への認知症対応力向上支援、大都市認知症支援体制モデル開発等、**地域における認知症支援体制の構築**に貢献しました。

【主な取組】

- 認知症支援推進センターとして、島しょ部を含む地域の医療従事者への相談支援の実施等、地域の認知症対応力向上に貢献

〈介護予防の推進及び健康の維持・増進に向けた取組〉

介護予防に取り組む区市町村への支援や、高齢者特有の疾患に対する外来でのケア等、**地域における介護予防支援体制の構築**に貢献しました。

【主な取組】

- 東京都介護予防推進支援センターとして、区市町村職員等に対する研修実施や専門職派遣、相談支援等を実施し、地域づくりにつながる介護予防に取り組む区市町村を支援



1. 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

人材育成

① 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成 評価A

大学等での講義、講演やセミナー、院内研修等を実施し、**次世代の高齢者医療・研究を担う人材を育成**しました。

【主な取組】

- ・ 高齢医学セミナーを開催して医学生のリクルートを行い、医師臨床研修マッチング試験は6.4倍の倍率となり初期研修医9名を確保
- ・ 高齢者看護エキスパート研修を外部医療機関にも公開する形で実施し、公開講座にセンター外から29名が参加するなど、地域の人材育成にも貢献
- ・ 連携大学院等から学生の受入を行い、老年学・老年医学研究者の育成に貢献【受入数：46名（㊟35名）】

2. 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

業務運営

① 地方独立行政法人の特性を活かした業務改善・効率化 評価B

働き方改革の推進に向けたライフ・ワーク・バランス確保、タスクシフティングの推進など、**効率的・効果的な業務執行に向けた取組を推進**しました。

【主な取組】

- ・ 医師の事務負担軽減に向けて、医師事務作業補助者の継続的な採用を実施するとともに、活用範囲を拡大
- ・ 有給休暇取得月間を設定し、年次有給休暇取得日数の向上を図った。【年休取得実績：9日（㊟8日）】
- ・ 職員提案制度により業務効率化に向けた提案を募集し、音声入力アプリを活用した議事録作成の省力化等を実施



【医師事務作業補助者の外来配置】

② 適正な法人運営を行うための体制強化 評価B

各種監査や研修会の実施等により、**センター運営の透明性・健全性の確保**に向けて取り組みました。

【主な取組】

- ・ 診療報酬請求の管理体制について、専門スタッフ（保険指導顧問医）の意見も参考に内部監査を実施し、一層の適正化を図った。

3. 財務内容の改善に関する事項

財務改善

① 収入確保 評価B

経営状況の積極的な発信など、職員の意識向上を推進し、**収入確保に向けた取組の一層の強化**を図りました。

【主な取組】

- ・ 診療科別原価計算の結果をセンター内会議において定期的に報告するとともに、経営に関する外部専門家による講演会を実施するなど、職員の意識向上に向けた取組を実施
- ・ 各診療科が経営改善に向けた具体的な行動計画を作成し、収益の改善に向けた取組を推進
- ・ 初診料算定患者の一層の獲得に向けて、予約受付体制を拡充



【医療経営に関する講演】

② コスト管理の体制強化 評価B

支出の削減に向けた案の検討・実施等により、**一層のコストの削減を推進**しました。

【主な取組】

- ・ 一層のコスト削減に向けて、建物総合管理委託などの委託業務や看護師修学資金などの手当の見直し等を実施

4. 法人運営におけるリスク管理の強化

法人運営

① 法人運営におけるリスク管理の強化 評価B

大規模災害訓練、安全な職場環境の整備、情報セキュリティ強化等、**危機管理体制の強化**に向けて取り組みました。

【主な取組】

- ・ 東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、大規模なテロ災害を想定した訓練や、首都直下型地震を想定したDMAT受入訓練等、区西北部二次保健医療圏災害拠点病院として災害対応力向上に努めた。



【DMAT大規模地震時医療活動訓練】

参考資料：令和元年度の主な数値実績①（病院部門）



表1 入院患者数と入院単価の推移

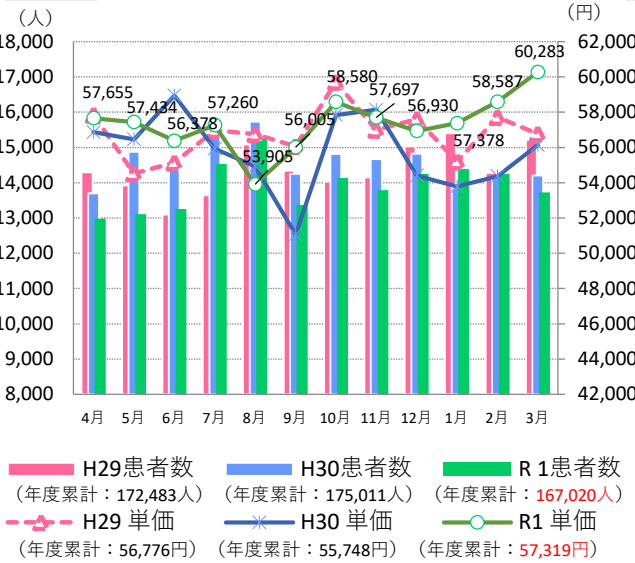


表2 外来患者数と外来単価の推移

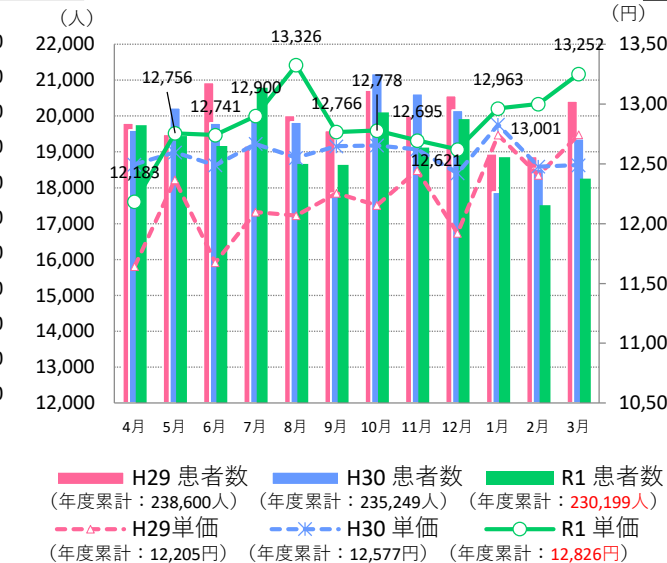


表3 医業収益及び医業費用について

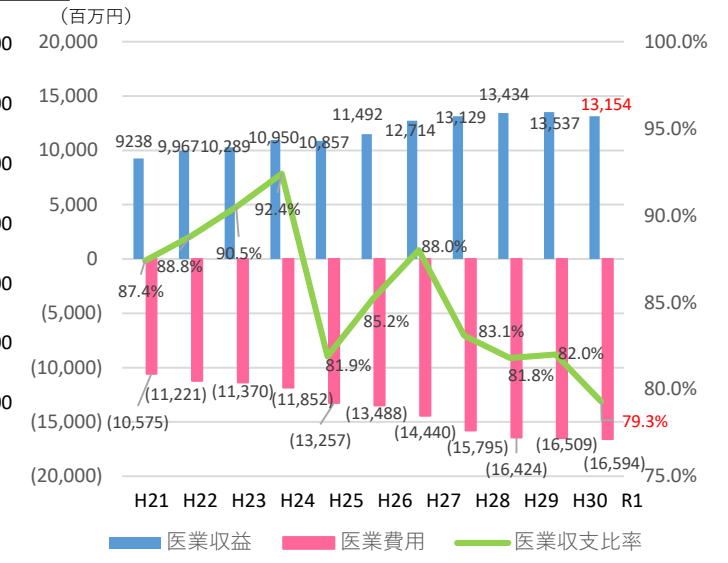


表4 病床利用率の推移

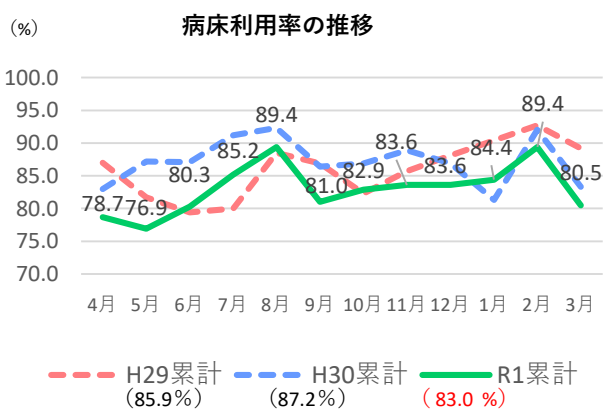


表5 平均在院日数の推移 ※病院全体

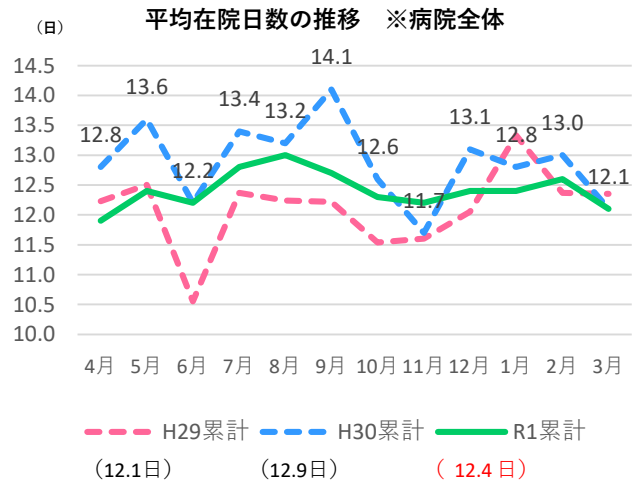
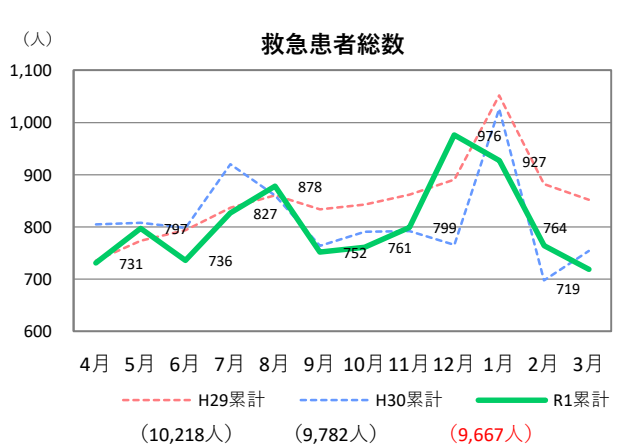


表6 救急患者総数



参考資料：令和元年度の主な数値実績②（研究部門）



表7

学会・論文発表件数

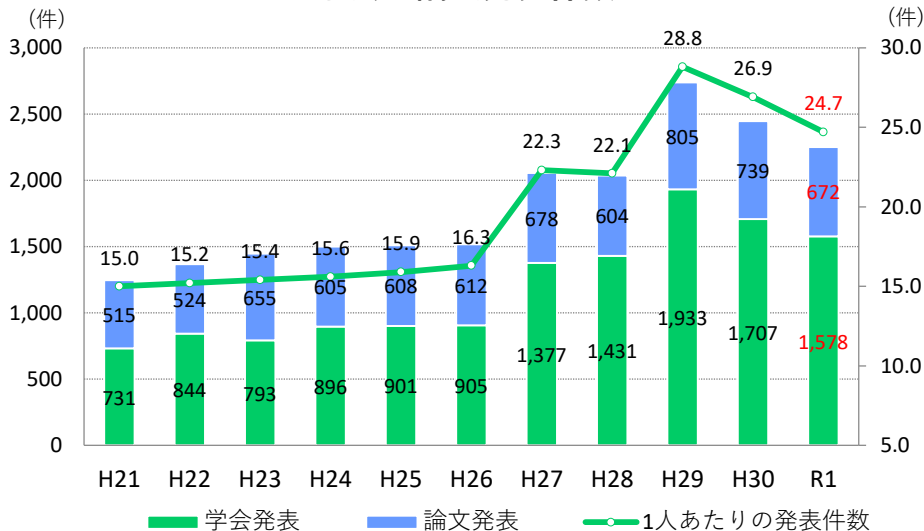


表8

外部資金獲得額

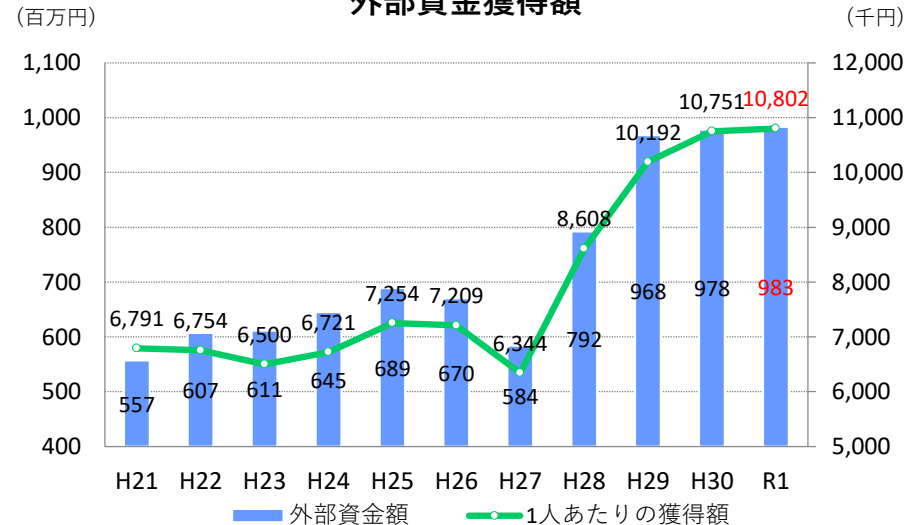


表9

科学研究費等獲得額・件数

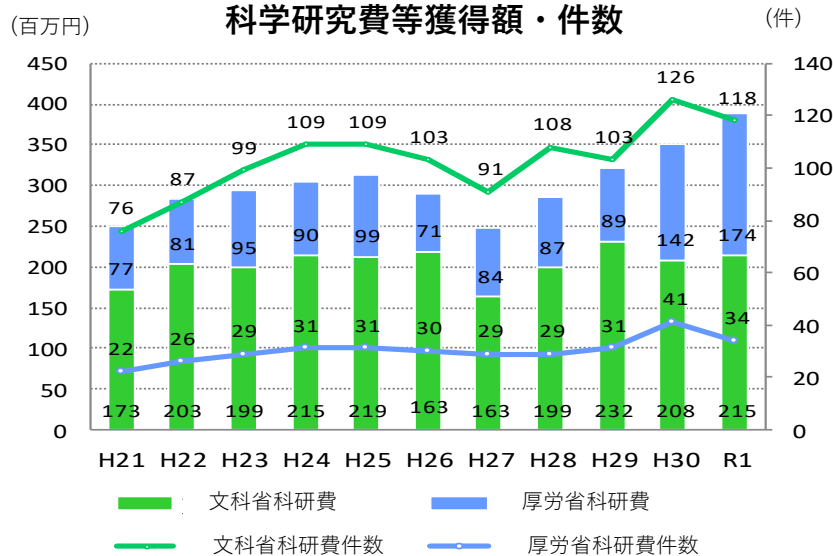


表10

受託研究等の受入金額

